

山陰教区 門徒総代会だより

編集・発行：浄土真宗本願寺派山陰教区門徒総代会 会長 坂根 勲
〒690-0002 松江市大正町443の1本願寺山陰教堂 TEL 0852-21-4747 FAX 0852-27-8351



2013(平成25)年度山陰教区総代研修会(石見会場)

総代の独り言？

山陰教区門徒総代会

副会長 村上 征男

二月十日の本願寺新報の記事に大阪教区開催の「葬送儀礼」の研修会の記事が掲載されていた。

そこには、「葬儀を丁寧に行うことは人としての尊厳を守ることと訴え、葬儀社からの葬儀依頼の窓口を同組事務所とし、遺族(依頼者)になるべく近い寺院を紹介するなどの対応事例をあげた」とありました。

私の居住する地区の人達はそれぞれが異なる地域から終の棲家を求めて集まり、次の世代へ移り替わろうとしています。

その中で、地域の関わりを断つ家族葬が急増しています。

流行は都会から地方へ、人は地方から都会へと流れます。結ぶ絆と広がるご縁は妙好人の記憶と共に薄くならないと言えましようか？。

初心に帰り葬儀を寺で、ご縁を寺からと地方の住職はご苦労されています。檀家意識から抜け出せない門徒はやはり古いのだろうか？

「二〇一三(平成二十五)年度 山陰教区門徒総代研修会」

テーマ「総代と実践運動」

講師 三明浄信師(大田西組照善坊)
住職・元基幹運動推進委員会
事務担当部長

鳥取ブロック 十一月二十日(水) 鳥

取伯耆組香寶寺 参加者六十四名

出雲ブロック 十二月九日(月) 出雲

市民会館 参加者一〇六名

石見ブロック 十二月十日(火) 三隅

組西楽寺 参加者六十五名

三明浄信師より実践運動についての講義をいただいた後、各班に分かれて分散会を実施。講義内容について感じたこと、各寺院での取り組み・課題などを共有しました。全体会では各班の話し合い内容を発表。最後に三明浄信師にまとめをいただきました。

総参加数二三五名。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

会所をお引き受けいただいた香寶寺さま、西楽寺さまには、この場をお借りしてお礼申しあげます。

全体会で多数の事例紹介・ご意見をいただきました。以下に抜粋します。

- 実践運動について詳しいことを聞く機会がこれまでなかったため、良かった。
- 子ども会で、子どもたちから「させていただけます」という言葉が聞こえるようになった。次世代を担う人を育てていくのが総代の実践運動ではないでしょうか。
- 法座への参拝を増やすため法要委員会を結成した。
- 住職と総代が相談して、法座の講師を

お願いするようにしている。
● 遠距離から講師をお願いする際、近隣寺院の法座でも講師をお願いするようにはどうか。

● お寺の活性化のために、趣味で交流を図っている。(合唱大会、グラウンドゴルフ大会など)

● 他のお寺の催しに積極的に参加し、自分のお寺の参考にする。

● 宗派を超えた取り組み

● 境内の掃除のときに茶話会

● 紙芝居

● 花まつりに近隣の子どもたちを招待

● 夏に子ども寺子屋を開催。紙飛行機づくりなどを行う。

● 近所の幼稚園が閉園したのを機にそこを門徒会館にした。開館の際、地域の方に開放した。

● 総代が夫婦で法座にお参りするようになり、波及効果で参拝が増えた。総代が率先して参拝することで成果が上がるように思う。

● 子ども会を近隣寺院で交代で行っている。

● お寺で収穫祭を開催。

● お寺と門徒の関係を深めるため、寺報を配ったり、坊守さんがブログを作ったりしている。

● 寺報を作り、門徒だけでなく地域全体に配っている。

● 住職を交え役員の勉強会を開催。内容は寺報に掲載し周知している。

● 地域社会とのコミュニケーションを深めるため、総代と住職が福祉施設へ出

向き、住職が三十分ぐらいの法話をしている。

● 奉仕活動を行うと、若い人は結構来てくれる。これを法座の参拝にどうつなげていくかが課題。

日常の寺院活動・地域と寺院との繋がりについて

鳥取伯耆組総代会 代表

藤田重徳

今回、浄土真宗本願寺派では基幹運動から、その成果を継承し運動名称を実践運動と、改め推進することになりました。

我が、山陰教区の実践目標は、「日常の寺院活動・地域と寺院とのつながりを大切に」。目標を掲げながら地域の人々が訪れやすい寺院を目指し、各お寺では頑張っておられる事と思います。

しかし、現実の問題として、宗派を問わず各お寺では、一番深い関わりは、葬儀法事ときです。

地域とのつながりを大切にすることは、もちろん大切です。それ以前に本来の檀家と深いかわりを持つてほしいものです。

よく訪ねられる事が、お布施のことで。お通夜・葬儀・初七日等々であります。人間煩惱があります。高い安いで良くとトラブルがおきます。最悪の場合には寺を変わられる人があります。昨今では、息子は都会に住み葬儀の時のみ帰られ執り行われます。あとは「さようなら」で

はなりません。

これらが、寺離れの要因となります。各お寺とも事情があるうと思えますがお布施について、もつとわかりやすく出来ないものでしょうか。



広い視野に立っての活動

神門組総代会 代表 田中幹規

神門組は出雲市を中心とした三十三の寺院からなり、それを五地区に分けて組織されています。総代会の主要な行事は総代研修会と組内寺院の巡拝行事です。

一昨年は神門組総代会結成四十周年を迎える記念行事を開催しました。約二百名が集い、前龍谷大学長の若原道昭先生の講演『持続可能な世界』を拝聴し、今日の物質文明にたいしての大きな課題は宗教を基とした精神文化の必要性であると強調されたことに一同感銘し、一層の精進努力を誓ったことでした。

記念行事開催の計画にあたり総代役員全員が他組の活動状況を知る機会があり、広い視野に立っての立案ができ、みのり多い行事となりました。

当日の運営をとおしても、門徒同士や寺院相互の協力はもとより門推協やコール蓮など他の教化活動との連携協力が、有意義な開催活動となりました。

総代研修会は毎年五十〜六十名の参加者です。ご住職の講話や懇親会で、教化活動の話題や課題について親しくお話ができ、意義ある研修となっています。

平成十六年から始めた『組内寺院巡拝行事』は、九年間ですべてのお寺を参詣させていただきました。それぞれの寺の縁起や由来をお聞きして、宗門の歴史や時代背景を知る貴重な研修となりました。毎回住職様より法話を

いただき、参加者は御縁に感謝申し上げます。総代だけでなく、門徒の方々もお誘いするようになり、近年は駐車場に困るほどになりました。

『総代だより』第一号にある、前教務所長野村宗雄様の挨拶文に『門徒同士の連携をふかめ、他の寺院や、他の組の活動などにも触れ、手を取り合い、寺院相互が協力して教化の態勢を整えること』

が大切である

——

との

お言葉

を、総

代会長

の役割

とし

て、強

く自覚

させて

いただき

ました

。



三隅組の取組み〜研修会

三隅組総代会 代表 中村勝久

組の総代会規則に定める、会員の素養を深め教学を研鑽する場として研修を行っている。研修の歴史は、第一回を昭和六十一年「真宗門徒の使命」を講題として開催、以来昨年六月の第二十八回研修会迄、先輩達、各住職にお世話頂き続けられている事に感謝したい。浄土真宗

のみ教え、門徒総代の使命等について研修している。昨年の研修については組総代会役員会に於いて講題を協議し組の実践目標「日常の寺院活動・仏事を勤める意味を考える」に沿ったテーマ「仏事の意義と心得」と決定。「仏事とは仏さまの働き」と言う事でしようか。私達の仏事の本当のあり方を講師より聞かせて頂く事とした。以降は、研修会の講義から私の心に残っている事を述べる。

門徒総代は寺院により選出が様々、地区毎の選出、ベテランから新人も、寺院との距離感、関係性も様々、宗教は人間にとって必要不可欠である事を前提とした講義。

人間は幼い時、親の慈悲愛情に抱かれて優しさに命一杯に生きる。しかし大きくなると人間は大事な事を忘れる、怖い事である。これを救うのが宗教仏教である。人間は一人では生きられない。優しさが無ければ生きて行けない(生きていく価値が無いと私も思う)。「死」は保育園の四〜五歳児で感じる。(私の五歳の孫も昨年九月私の義父の死の際激しく泣いた)宗教は優しさが必要↓阿弥陀様に出会う↓本願を受け入れていく事。私達は二つの心を頂いているものである。

①感謝の心②慚愧欣喜の心。人間として豊かに生きて行く事。最近感謝の心が無くなってきたのではないかと心配するところである。良い葬儀法事とは過去には各家庭でお斎を用意していたが今は仕出膳バスで温泉等で会食するのが八割になり阿弥陀さまがおられない食事会となった。日常の家庭での仏事が仏さま中心で無くなり「ホットケさま」になっ

ていないか深く考えるべきである。寺院の仏事はどうか。寺院に対する価値観の変化、寺院、神社が地域のお荷物になっ

てはいないか。過疎高齢化で維持運営が困難に。今後どうして仏事及び念仏の声を子や孫に伝えていくか、声に出して念仏を頂く事を教えていない。昔は家族で念仏する姿が有り伝わっていた。声に出して念仏を頂こう。門信徒は先ず聴聞する事が勤めであり最低でも報恩講には参詣する事。仏法は聴聞の宗教であり聴く事に尽きるが聴き方が難しい。阿弥陀さまが救って下さる、阿弥陀さまの考えを頂く、智慧と慈悲を頂いている事を確認する姿、仏壇は小さくても良い。掌を合わせる姿、念仏する姿が必要なのであるとの講義。

この研修会を終え次回の研修会のテーマを考える際、親鸞聖人七〇〇回大遠忌の時「念仏が消えた」との声あり、今回の七五〇回大遠忌で「念仏が前回以上に消えた」との声がある様子。念仏を真剣に考える必要性を感じている。「念仏をどう学びとるか」という事で、次回研修会も組の実践目標に沿って「お念仏とは」

の講題と決めたい。意義の充実に充実した研修会を目指したい。



仏法は心の柱である

邑智東組 総代会 代表
野田 修喜

この田舎で販売業にたずさわっており経営者として二十五名の従業員の方々と共にやっております。この何年も冬期には約三ヶ月家を離れ移動して異なる仕事をしており体調も悪いのですが世情も随分と変わり維持継続の為最大限の努力を家族と共にやっております。そこでお寺におきましては住職様は経営者だと考えます。お参りが大変少なくなっている状態の中で今回の様に私達に問われる前に先ず住職様のお考えをもっとお聞きしたいと思えます。誰も誰も生活をする中で思いもかけない困難に出合いますがそこを泣きながら苦しみながらも通り抜けて今があると言う事はなんとなく大きなみ手の中でお救いに合っているという事を感じます。この事を良くわかるようにお聞かせ下さるのがお寺におけるお聴聞の場であると思えます。このところをより一生懸命になつていただきたいのです。それにおいて皆さんついていかれます。どの道の方々も一同に会されてお話し合いをされるようにもつともつと集まつて知恵を出していただきたく考えます。例えばすでにそうしておられる所もあると聞きました。が地域においては季節のお聴聞を順番にされると

か全体で取り組まれるとか又若い住職のご法話をもっとお聞かせ下さつて若い人との御縁を積み重ねられるとか他にも色々あるかと思われます。心に南無阿彌陀仏の柱があれば人はどんなに救われるでしょう。この尊い阿彌陀如来さまのみ教えが薄ければそれこそ地域も国も心配になります。田舎においては若い人も年取つてもまあまあ元気でいる人は各方面において役がいろいろとありそれを受け持ちこなして生活との両立でいっばいなのです。私達年配者は家庭において何を発言するよりもお寺にお参りさせていただき家のお仏壇に座る姿が大切であると思えます。

今は生活と子育てに忙しくてもよく見ております。念仏者として明るくやさしい気持が持てていけば後に続いてくれるはず。私もお役につかせていただきておりお寺の事は何よりも大切に考えておりましてお参りが少ない事についても心を痛めております。と同時にこの年になりますとこれ迄やり残している事やりたい事もありましてお役をしりぞいてゆつくりとした気持でお寺でのお聴聞も静かな気持で体いっばいのゆつたりした心でお聞かせ願いたいと切実に思っております。と、終りにあたりまして山陰教区の充実の為に御取組みいただきありがとうございます。各お役の方々に心より御礼申し上げます。

2013(平成25)年度 山陰教区門徒総代会 会計歳計予算

歳入の部						
款	項	費目	25年度予算額	24年度予算額	対比	説明
1		会費	804,000	840,000	△ 36,000	
	1	当年度会費	804,000	804,000	0	1ヶ寺2,000円×402ヶ寺分
	2	前年度未収金	0	36,000	△ 36,000	22年度未収金
2		研修会参加費	360,000	345,000	15,000	
	1	研修会参加費	360,000	345,000	15,000	1人1,500円×240名
3		助成金	260,000	210,000	50,000	
	1	助成金	260,000	210,000	50,000	宗派・教区助成金
4		雑収入	819	2,196	△ 1,377	
	1	雑収入	819	2,196	△ 1,377	
5		繰越金	105,181	122,804	△ 17,623	
	1	前年度繰越金	105,181	122,804	△ 17,623	
		合計	1,530,000	1,520,000	10,000	
歳出の部						
款	項	費目	25年度予算額	24年度予算額	対比	説明
1		事業費	655,000	655,000	0	
	1	研修費	600,000	600,000	0	開催経費(3地区)
	2	会報印刷費	55,000	55,000	0	「門徒総代会だより」印刷
2		会議費	230,000	230,000	0	
	1	理事会費	150,000	150,000	0	監査・理事会開催経費
	2	常任理事会費	80,000	80,000	0	2回
3		教化助成費	400,000	400,000	0	
	1	教化助成費	400,000	400,000	0	20,000円×20組
4		組織強化費	30,000	30,000	0	
	1	組織強化費	30,000	30,000	0	宗派負担金等
5		事務費	85,000	85,000	0	
	1	通信・印刷費	80,000	80,000	0	郵送料
	2	諸費	5,000	5,000	0	事務消耗品等
6		雑費	5,000	5,000	0	
	1	雑費	5,000	5,000	0	
7		出向費	40,000	40,000	0	名称変更
	1	全国門徒総代会費	20,000	20,000	20,000	項新設、全国門徒総代会出向経費等
	2	連絡協議会費	20,000	40,000	△ 20,000	項繰下、中四国連絡協議会派遣経費
8		予備費	85,000	75,000	10,000	
	1	予備費	85,000	75,000	10,000	
		合計	1,530,000	1,520,000	10,000	

編集後記

総代会だより第四号をお届けいたします。

今年度の総代研修会は、「総代と実践運動」をテーマに掲げて開催しました。ご参加いただいた皆さまに、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)について、しっかりと学んでいただきました。

今号でも研修会で出されたご意見・事例などを紹介させていただきました。この「総代会だより」は、山陰教区内の門徒総代の皆さま、ご住職の皆さまとお寺での課題や取り組みなどの共有を目的として発行しています。ご参考いただければ幸いです。